

主な記事

インド蚕糸業開発指導報告…1
土屋茂一郎氏農学博士に……3
東北地方3支会廻り………5
会員の近況………6
母校だより………8

千曲會報

昭和33年2月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内
発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

インド蚕糸業開発指導に就いて (報告)

Colombo Planによる養蚕専門家 アジア協会蚕糸業委員会幹事長 唐 沢 正 平

第4信

10月25、26両日ボンベイにおいてセントラル、シルク、ボールド(以下C・S・B)の技術改良会議、29日C・S・B本会議開催、私を来賓として招待され、出席しました。

インドの蚕糸業は全く官庁の蚕糸業と云うべきか、現在C・S・B中心で蚕糸業に関する全ての政策も技術改良も推進されています。C・S・Bは会長の外35名の会員で、その任命は全て中央政府商工大臣の主管で中央政府商工省織物局長、大蔵省財務局次長及び関係局長代理、各州蚕糸局長、商工織物局長、次長、蚕糸、織物養蚕各業組合長、旧藩主、上院議員、弁護士等多彩であります。蚕糸に熱心な人々によって構成され、地方的には養蚕業の状況を反映してマイリール9、ウェスト、ベンガル5、アッサム3、ボンベイ2、ウタルプラデシュ2、マドラス、アンドラ、プラデン、マデラプ、ラデン、ビハール、ジャム、カンミール、パンジャブ、オリッサ各1、その他中央政府関係です。そのC・S・Bに中央委員会と技術改良委員会があり各州の技術改良を審議して予算を分ける組織で年間約1,000万ルピーを執行蚕業改良を促進しています。

第2次5ヶ年計画に4,000万ルピーを投じ現在の産額(家蚕)2,500万封度を3,000万封度に増し、更に野蚕繭の収量増加を計画、紡績原料増産に力を入れています。25日、26日の会議で詳細が判った感じです。

29日の定例(年2回)本会議は、開会、新任議長挨拶、直ちに私の挨拶と進行、予め準備した印刷を配布説明しました。主旨は、着任日尚浅く中央及びマイソール州政府当局及びマイソール州政府施設の中、蚕業試験場 蚕種製造所 ホスール(マドラス)養蚕所及び養蚕農村を見たのみだが感想を述べると前提して、

1. 中央地方当局者が蚕糸業の改善開発に熱意を示されて今後の仕事に仕甲斐あることを感謝する。

2. 官庁施設と養蚕家の実状を見てその作業の差大なるに驚く。(先般報告の通り官庁施設機関は日本に3~6ヶ月留学した人々によって指導されているので栽桑、養蚕、蚕種製造等の方法は日本に似ているが日本の現状に比し15~20年の差があり、養蚕家に至っては明治時代の日本養蚕で40年以上の差と思われる)。その差を今後協同組合による共同飼育、模範指導展示桑園設置、蚕業試験場技術員の定期的派遣指導等により官庁側の技術を農村に早急に導入するの必要がある。

3. 原種を日本から買いたいときどき話が出るが日本の優良種必ずしもインドに適するとは考えられぬ。蚕品種は気候、風土、桑の栽培、養蚕技術等を総合して選択し、育成されねばならぬ。日本も一代種製造以来40余年にして今日に到ったのだ。インドに適するものはインドで育成されねばならぬ、と話しました。(良種の育成されるまでの期間は日本から強健な系統の交雑種を入れるように漸次誘導の要ありと考えます)。

4. 政府施設の作業振りは日本の真似をしているが現在日本はこんな風に方向されている、と少し日本の実状を話しました。

5. 生糸及び繭の価格変動あり、養蚕は投機事業と考える一部の人のあるを知った。繭糸価格安定の要がある。

等を話したら皆賛成していました。更に私は学者でもなく又高官でもないのに、今回日本政府がコロネロプランでインドに推薦したのは45年間蚕種製造、養蚕及びその指導、製糸等を実地に体験し官吏もやり、民間会社、協会等に関係し、更に現在はアジア協会の蚕糸委員会に関係している、とアジア協会の性格事業、蚕糸業委員会の仕事の内容等を説明しました。皆私の話に賛成してくれ、会議中に日本の指導者を1年でなくもつと延長せよなどのC・S・B当局に希望もあり、適任者を更に推薦しようなどと話しました。閉会後皆さんから早く俺の州に来い等の要求が数々ありました。



ボンベイは36、7度の暑さだったので少し身体がやられ気味でしたが、10月31日バンガロールに帰りすっかり体力が恢復しました。

11月早々ここバンガロールから35マイル田舎のチャンナバトナ(蚕糸業中心地)に入り、12月、1月と3ヶ月間マイソール州の蚕糸業を指導することとし準備を進めています。

(11月3日記)

第5信

既報の通り11月4日マイソール蚕糸業中心地チャンナバトナに着き、州政府経営の絹紡工場に宿泊、それから毎日郊外3マイルに在る蚕業試験において職員技術者及び一般養蚕製糸家等を指導しています。次に御報告申し上げます。

I. 本報告要旨概括

1. 私は現在マイソール州チャンナバトナ中央蚕業試験場に駐在し毎日場職員14、5名と養蚕上の研究、調査指導をし

ています（これは12月20日まで続く予定）。

2. 気象条件は当地の9月から翌年1月末まで日本の春と同じで1化性、少くとも1化×2化の交雑種飼育が可能であると思われる。

3. 私が日本から持参した1化性太平×長安は当試験場で飼育され立派な繭になった。しかし5分作で死籠繭が多いがその原因はインドの高温によると考えられた。しかし私は原因は桑にあると判定した。

4. 蚕児雌雄鑑別法を指導して皆に珍しがられ、喜ばれている。これにより種繭の節約その他の利益で年額3〜4億円は蚕種製造業者が利益を得ていると思われる。又蛹体の雌雄鑑別法を指導した。

5. 太平×長安の人工孵化のいろいろな方法を実施指導した。皆その孵化の齊一なのに感心した。

6. 製糸工場を視察調査したがその粗雑さには手のつけようがない。これは繭が改善された後に煮繭や繰糸機械並びに技術の改善が指導されるべきだと考える。

7. 11月13日州政府蚕糸局長が来訪したので蚕糸業改善策の私見を提案した。即ち、イ 栽桑の改善。ロ 優良品種の飼育を統制して同一時期に大量出荷。ハ 政府の乾繭所を設置。ニ 優良繭は高値で買上げる。ホ 政府製糸工場は優良繭のみを使用。ヘ 製糸工場の技術改善訓練し優良生糸生産の奨励等である。局長はこれに同意を表していた。

Ⅱ. 日時別指導要領

11月5日 午前中マイソール絹紡工場と同製糸工場を視る。後者の原料繭の貧弱さにまず品種改良優先と考える。

午後中央蚕業試験場（以下中央蚕試と略す）で職員一同に養蚕。製糸に関し日本の実状を講話する。

11月6日 午前中央蚕試 1 桑園の実状を調査する。苗接木実施中、2 大平×長安の繭の詳細な調査を指導。3 蚕種人工孵化法を説明。4 蚕児雌雄鑑別を職員に指導。

午後絹紡工場長とバンガロールに行き同工場チャアマンに紹介され、C・S・Bに立案の必要書類持参。

11月7日 午前中央蚕試 1 職員から「玉繭は何故出来るか」の質問、丁寧に教えた。2 隣接州政府養蚕場で日122×支122。日1号と称するものの説明を聞く。前者は1952年日本から輸入、そのまま6、7代複製している。後者は30年前に輸入（多分日1×支4と思う）これを改良したと云つて何世代も複製したものである。3 職員に蚕児鑑別を指導する。4 新築中の中央蚕試を見る。

午後休養 病欠。

11月8日 休養

11月9日 午前中央蚕試 1 太平×長安の死籠繭を調査させる。2 気象表を調査する。3 室外気象観測所を場内に設置し観測実施を急ぐことを奨める。4 マイソール大学植物学教授来場、カヌワ桑苗育成所に同伴する。5 カヌワ桑苗育成所を見る。1年中葉は緑だ。改良鳳返、甲撰、御所撰、一ノ瀬、マイソール、ローカルの改良1号、5号等を視る。年10万本育成無償配布している。午後休養。

11月10日 午前チャナパトナ旧市街を視る。午後絹紡工場職員と日本蚕糸業状況、マイソール州蚕糸業改善策について話す。

11月11日 午前中央蚕試 1 アッサム州蚕試職員来訪し話す。2 蚕試職員の1粒繰を指導。3 蚕種育成上生繰の必要を説明し指導する。4 太平×長安の死籠繭増加につき計算。5 1粒繰の結果下平×長安 1600米マイソール土種650米マイソール×日1 900米 6 気象表調査の結果室内温度77〜80°F最高85°F湿度75〜89%（通年）7 1化又は1化×2化飼育に適する気象と考察する。午後気象表と州蚕糸統計を調査。

11月12日 午前中央蚕試 1 ケニビカッテ附属桑園を視る。前記の日本種、マイソール土種等の桑が植付られている。2 桑発育調査をする。3 桑苗育成、桑種子の播付等を見る。5 蚕試に帰り各品種のデニール調査の指導、6 気象表を調査。午後絹紡工場長、蚕試場長、養蚕場長同行で絹紡工場附属蚕種製造所を視る。1 ラムナガール繭市場を視察する。1年中毎日繭（生繭のみ）の取引がある。2 副蚕糸問屋を見る。3 農家の養蚕実状を見る。

10月13日 午前中央蚕試 1 大平×長安発蛾、産卵の指導。2 蛹の雌雄鑑別指導。3 マイソール州政府蚕糸局長来訪、蚕糸改善策を説明。午後局長とカタワ桑苗育成所を視察、更に養蚕村アプールで農家視察。

11月14日 午前、マイソール製糸工場視察後中央蚕試に帰り 1 日本の蚕種製造及び人工孵化を説明指導。午後、2 大平×長安の採卵及び人工孵化指導。3 今後施行せらる桑の品種と1化性飼育試験につき説明打合せた。

11月15日 午前マイソール製糸工場実状視察後中央蚕試、1 大平×長安昨日産卵分の各種人工孵化、越冬の実地指導。2 蛾産卵につき指導。3 摘桑指導。5 ムタイヤ氏ボンベイ附近から養蚕家を伴い来訪、桑園管理につき説明、午後蚕試、1 午後3時即時人工孵化を自分で施行し午後7時施行の分はこれに準じてやらせる。2 明日89蛾の処理、即浸、冷浸、人工越冬について説明し打合せた。

会費を納めて下さい

本会々計は非常に逼迫して参りました。出来るだけ速かに会費をお納め下さい。

尚、会費の納入についてはなるべく次の方法によつてお納め下さい。(1)支会で会費をとり纏めて下されば交附金（還付金）をさし上げます。(下表参照)交附額を差引いて本部へ御送金下さい。(2)振替御利用の方は、長野6243又は東京43341で。(3)昭和25年にさかのぼつて未納金を納めて下さる方は分納でも結構です。尚昭和32年から会費が300円になりました。

会費と交附額一覽表

項目	年度	昭和24年	// 25年	// 26年	// 27年	// 28年	// 29年	// 30年	// 31年	// 32年
会費		100円	200	200	200	200	200	200	200	300
交附額		⅔	⅔	⅔	⅔	⅔	60円	60	60	100

土屋茂一郎氏 (糸9回) 農学博士に

長野県製糸協会主事土屋茂一郎氏は、かねてから北大に学位論文「家蚕の営繭過程に起る繭形の変化とそれが解舒に及ぼす影響に関する研究」を提出されていたが、昭和32年12月20日に教授会をパスし、近く農学博士の学位を授与されることになりました。

以下氏の研究結果の概要を紹介します。

家蚕繭の形態は品種の遺伝形質により各々その特徴をもっているが、特に営繭中の諸環境の影響により本来の形状が著しく変化した繭は繰糸中落緒を誘発する場合が多い。著者は多年繭検定に従事し其の間養蚕家の飼育した多量の繭に接し、常に繭の形態と解舒との関係について調査した結果、解舒率不良の繭は各蚕期を通じ又蚕品種の別を問わず何れも共通した特異の形態を呈している事実を知った。然もこれ等は品種本来のものでなく上簇環境によつて発生するものであると考えられるに到つたので、解舒率を異にする繭の性状を物理的に実験を行い、繭形と解舒との関係を究明し、更に環境を種々に変えた上簇実験を行つて其の原因を明にした。

1. 解舒の良否と繭層硬さとの関係

繭層の胴部を巾の小さい環状に切り取り Castigliano 氏の定理を応用し $E = \frac{W_l^3}{\delta I} \left(\frac{\pi}{4} - \frac{2}{\pi} \right)$ 式により、ヤング率を求めた。其の結果によれば解舒良好の繭のヤング率は 53 kg/mm^2 内外であるのに対し不良の繭は 60 kg/mm^2 内外であつて解舒不良の繭ほど其の繭層は剛硬である。又環境を変えて上簇した繭について測定した結果は低湿区 (24°C RH64%) は 42 kg/mm^2 中湿区 (24°C RH75%) が 50 kg/mm^2 内外で、高湿区 (22°C RH93%) では 60 kg/mm^2 内外で湿度の上昇に伴つて繭層は剛硬となる。

2. 解舒の良否と繭層組織の粗密の関係

繭層を構成する組織の粗密と解舒との関係を知るため水压を利用して $h = \frac{4T}{\rho \cdot g \cdot D}$ の測定式により、繭層籠目の径を測定した。其の結果によれば解舒良好の繭の籠目の径は 0.0805 mm 内外であるのに対し不良の繭は 0.0621 mm 内外で同一種内においても不良の繭は繭層の組織が緻密化している。又環境を変えて上簇せしめた繭について測定した結果によれば、低湿区 (24°C RH64%) 0.0810 mm 、中湿区 (24°C RH75%) 0.0716 mm 、高湿区 (22°C RH93%) 0.0644 mm で湿度の上昇と共に繭層の籠目は漸次狭小となり繭層の組織は緻密



化する。

3. 解舒の良否と煮熟による繭容積の変化

繭を煮熟すると煮熟時間の経過に伴い漸次その容積が増大し膨化限界点に到達すると次第に変化を示さなくなり、繭殻面の縮形は消失して平滑となり、営繭初期の状態に復する。この場合解舒良好の繭の膨張率は 6% 内外であるのに対し不良の繭 13% 内外で解舒不良の繭程煮熟による膨張率が大きい。

又環境を変えて営繭せしめた繭についてみるに中湿区 (24°C RH75%) の繭の膨張率は 5% 内外であるのに対し高湿区 (22°C RH93%) の繭は 12% 内外膨張した。

4. 解舒の良否と解舒抵抗との関係

繭層各部位 50 m の繭糸につき 10 m 毎に検べた解舒抵抗の最高値、最低値及び其の分布状態は、解舒不良の繭及び高湿環境において営繭した繭の抵抗は何れも繭層部位による開差が顕著であるばかりでなく局所的に極端に抵抗の大きく現れる個所が散在する。

5. 営繭過程に起る繭形の変化

営繭過程に起る繭形の変化を柳沢博士の研究による Oval of Cassini の計算式によつて測定した結果によれば、営繭中並びに其の過程において繭は何れも繭巾方向に収縮して其の容積が縮小する。

営繭中並びに其後における繭形の変化 (白馬×天竜)

項目 區別	営繭中の変化 (収縮率)			放置中の変化 (収縮率)			乾繭中の変化 (収縮率)		
	繭長	繭巾	容積	繭長	繭巾	容積	繭長	繭巾	容積
中 湿 区	0.1	0.9	2.2	0.2	0.9	1.8	0.1	0.5	1.0
高 湿 区	0.2	1.8	6.1	0.4	2.0	3.1	0.4	0.8	1.8

6. 結 論

実験の結果を総括して考察するに、多湿の環境中において営繭した繭は、営繭中及び其の後の過程において繭殻が湿度の影響によつて物理的に収縮する際、繭層を構成している繭糸相互の著しく密着する部分が繭層内に局所的に発生して、その部が繰糸中繭糸に瞬間的解舒抵抗の増大を与え、落緒を誘発するものであることが判つた。(文責・編集部)

73号 (正月号) へのおわび

会報73号は誤植まことに多く、ずいぶんとおめいわくをおかけいたし、なんともおわびの申し上げようありません。これは結局私の非才のいたすところではありますが、多少その遠因と申すべきものもありました。じつは会報の印刷を一手にひきうけておりました、みすず印刷があたかもそのとき破産をしましたのです。千曲会のさみしい台所をみている私としては、めつぼうに高い印刷所へ落札することははばかられました。また納期に郵政省におさめなければならぬ責任もありました。そんなこんなでつた手段は、会報の一部頁を安くあがる印刷所で、他の部分は高いうちでもつとも安い印

刷所ですということでした。すなわちこれで期間に間にあい、値段もあまり高くならずということの予定でした。ところが12月は印刷所のかきいれどきでありますため、印刷は日1日とのび、結局第1校正を送つてきたあとは責任校了ということになりました。それが充分履行されなかつたわけなのです。私は責任を回ひいたしませんが、多少印刷にごけいけんのあるかたは私および担当者にご同情くださることと存じます。こんごこのようなことのないようにいたしますので、なにとぞおゆるしくださいますよう。

(小山 長雄)



卓 上 独 語

鈴木教吾

繊維類の不況は、いよいよ深刻だ。設備調整措置法の実施に先立つて、各業者とも販込み増設をし、生産能力が激増したところに、主たる輸出地盤の東南アジアその他が、外貨不足で輸入出来ない。折柄日本が金融引緊めで、累積したストックを出血販売せねばならない。例の過当競争が相場をつぎつぎに崩してオッファーする。その足許を見られて、当海外筋が買控える。と言う様な原因結果が折重つて、現在の不況となつたのである。

人絹の操短は昨年夏からこれで第三次的だ。18%から28%、遂に平均50%と言う驚くべき大幅操短になつた。その他スフ紳(25%)・スフ糸(27%)・綿糸(22%)・ソモ・紡糸(30%)で、織物も平均25%を目標にしている様だが、既に各地機業地は、自主的に休業している所が多い。繊維製品の輸出は、大体総輸出額の30%程度で、今年度(3月末)が9億74万ドル、来年度は10億ドル以上を目標にしている。が現状ではこの目標達成に不可能に近い。

合成繊維は、毛や絹の様に、原料を輸入せずに済み、絹や麻の様な原始産業的桎梏もなく、化学的操作によつて、生産性も品質も向上出来ると言うので、政府も民間もこれが増産に乗り出し、32年度には月平均9百万封度、年間1億封度以上になり、更に増産の手を緩めず、35年には3億封度出来る筈だ。しかも東レの如き巨大メーカーは、消費情勢を見て、自発的に建値を下げ、しかも品質の改善に寧日なした。

3億封度と言えば、生糸量に換算して280万俵だ。産繭額が戦後最高でありながら、他の繊維の様に強制操短もせず、相場も19万円台に焦げつき、輸出も内地消費も、前年水準を保っているのを誇りとしている様だが、数量的に見れば大衆性が乏しく、特殊な用途に限られるべきではないか。インドや東南アジア、中共果ては伊太利、フランスなど、蚕糸業の開発復興に努力していると言っても、数年後の増産可能量は何億になるだろうか。

糸価が19万円台に焦げついているため、商社が生糸の取扱いに興味がなく、輸出

数量も増加しない、と真面目に論じている筋がある。糸価は暴騰暴落するものだ、との古い観念そのまま暴論だ。貿易上の過当競争は、我が商品を業者自らが暴落せしめ、海外の買手も、日本の商習慣(?)を知り、安値々々とたたくのが常だ。生糸が国際市場で価格安定商品の先駆となり、古い観念の取扱業者から離脱して、内外共に新しい歩みをすべきだろう。

印象強くとどまる
若人の影

石倉新十郎

老いて記憶の鈍くなつた脳裏に止まる人は身の者以外長い生活に密接であつた知己のうち特に強く影の止まつている人が幾人かある。

上田の学校創立以来在職30年を省みてただちに浮びでる人を挙げてみると、垣根を越えようと足をかけ跨つた先生を拝み倒しにやめさせた秋山巡視、無茶な叱責に憤激して雑巾・バケツの汚水を養蚕部長の背中にぶつけて辞職した宮坂小使、研究の犠牲にする養児にいちいち冥目して南無阿彌陀仏を唱名した村上教授、晩秋の夕暮常田池畔にカメラを据え立て雨の中に思う通行人をねらい待ち続けた久留技師(文部省建築課員で甘茶展創立者のうち)など躍如として目前に現出するのである。

以前の若い学生についても式典の余興、剣道、柔道、弁論、庭球、運動会、スキー、スケート、野外演習、兎狩、甘茶展、書道会、音楽会などに関連して当時のままに浮び出てくる人々はつぎつぎとつきない様である。それらのうち特に著しい2、3を記述してみたいと思うが仮名を許して頂くこととする。

1. 北大手に住居していた頃のある日、画でもかこうかとしていたときに門辺に尺八の声が聞え、女中が虚無僧が参りましたと告げたので、聞耳をたてると音声が進みのものでないので玄関に出てみると正装の虚無僧が居り、深編笠を脱ぐのを見れば学生の海辺君であつたから全く驚かされてしまつたのであつた。客間に通し聞いて初めて本格的稽古修業をしたことを知つたのである。なにか一曲をと所望して吹奏を聞き入っているうちに心は夢のごとく淡路島沖の小舟にゆられ、須磨の舞い子、明石の浜辺によせる軟い磯波の音、遠くひびく汽笛の音まで入つて、かつて神戸鷹取の鉄道工場に実習した頃の景色まで浮び出したのに心怪しと思つたら曲が終つていたのであつた。あ

まりの不審さにその旨を話すと、海辺君はさも快心という笑い顔でこれは春の海という曲ですと話された。このときつづくと奏楽の驚くべきものであると感じたのであつた。

その後外国では何度となくオペラを聞き帰つては能楽を見、邦楽も聞いたのであるが題を知らずに情景まで画くほどのものに出会つたことはそう数多いものではなかつたのである。今にして思えば海辺君は学業などより、むしろ尺八専門に達せられた方が珠玉として光明を発揮したのではなかつたろうかなどと思うのである。天分必ずしも機会と境遇に恵まれず不出世に終る運なのかも知れない感が今も残るのである。名簿で見ると今重要実業家として業界に活躍しておられるようである。

2. いつも教室で少しもノートをとらず、私の顔を見て熱心に講義を聞いていた変つた学生があつた。ある日学校長に呼ばれ、君の科に外島というのがいるだろう。学生課から申し出だが出欠不同で殊に実習をサボるそうだから君から注意してもらいたい、と云われて出席簿をみれば正にその通りで驚いたのであつた。早速下宿を訪ねて階段から外島君居るか聞くと、オー上がれの返事であつた。外は晴れた好天気なのに頭から毛布をかぶりコタツによつて読書に夢中の様子。その本はなんだい、で私の顔を見、驚き顔であつた。ギョッリ詰まつた書棚をみると社会学、経済学などばかりで学課関係の本は一冊も見られなかつたのであつた。その後は出席だけは実行したようであつた。

3年になつてからのある日私宅を訪ねて先生のいつぞやの話は本当ですねと感心顔。なんの事だい。女にもてる術。あれは卒業生に餞別の辞ではないか、君は学生でもう実験したのか。聞く所によると、上田市が募集した市の発展策という懸賞論文の一等に外島君が当選し相当の賞金を獲得したのであつた。それで友達と何回か料亭で私の話した要領で気前を見せたところ、街中で芸者に会おうと一寸外島さんと遠慮なく声をかけられるようになつて閉口しましたのであつた。幸に学生課には知られず借りたノートで勉強し最上位ではなくも無事卒業し独自の力で職を見つけたのであつた。1年後出張先で外島君に会つたら、デパートを案内しその経営策から販売の真髓を説明してくれるやら、カフェーに案内して経営の内容から婦人等の活動まで細大説明してくれたのには感嘆させられたのであつ

た。

元来あまり健康には恵まれなかったこともあり名簿を見ると無職でおられるようである。やはり機会と境遇に好遇しなかったかもしれないのである。

3. これも学生課からの注文で素行上のことで本人を訓戒してもらいたいと名ざしであつた。少しもそんな様子はないのにと思つたが、念のために下宿を訪ねると不在であり多分玉突き屋でしょうという。捜して聞けば少し前に出かけた後で、多分麻雀屋でしょうという。ようやく捜して聞けば今出かけたので、再び下宿を訪ねてみてはまだ不在であつた。玉突き屋も麻雀屋も花柳街の真中にあり、上田花柳街なら大方知っているつもりでもこれらは全然知らなかつたのであつた。下宿の主人に言つてを頼んで帰宅した。夕食後、なにか御用でしたかと西岡君が不審そうな顔で訪ねて来た。対談となつて次第を話し意見を聞くと、私はこの学校は家庭から社会に出る間の緩衝地帯だと思います。出来れば1年おきに落第して5年がかりで卒業したい所ですが、親1人子1人の中の母に心配させるのは気の毒ですから3年でもう間もなく卒業しなければならぬと覚悟しています。大概の事には驚かない私も啞然たらざるを得なかつたのである。聞けば一般学生の学資の2倍額を母から支給されていたから友達を連れて緩衝利用をしていたのが学生課の問題になつたらしい。学校に心配をかけたとは申しわけありませんが、危険な絶壁のぞきはしても御調査下されば母に知られても困るような事をしていない事とお判りと思います。もう大体判りましたから明日から止めてもよいのですと涼しい顔してゆつくり煙草の煙りを吐くのは全く面喰わせられたのであつた。卒業すると、今年は就職口の数に足りないそうですから私の一番後回しに願いますの申し出。どこか確信があるのかと聞けば、男一びきなんとでも社会に出てみましょうと平然たるものであつた。果してその言の通り一年後にはある工場で場長直属の助手になつており、私を歓迎安心させてくれたのであつた。

名簿をみると今は繊維会社の重要ポストにあつて大方の部下に慕われ悠然と迫らず、世態を達観していられることであらう。

以上のほかに話せば読者の樂しがりそうな人が、次々と浮びでるがこうした私と御当人だけのことはこれらがもつとも著しいものであらう。

東北地方3支会廻わり

倉 沢 美 徳

東北地方3支会(福島、宮城、北奥)でリレー式に支会総会を開くから私に出て来いと云う。私はこの種の会合には最近10年間1度も出席した事がないし、なるべく現職理事が出て会員各位と接触して歩く事が将来本会のために有利であると思うので1度は辞退してみたものの招請の内容には私の退職を痛まざつて下さると云う御好意が多分に含まれて居たので、これを有難く御受けする事にして東京廻りで出発した。

12月7日(土曜)は福島支会を飯坂温泉吾妻荘で、8日(日曜)は宮城支会を仙台市消防会館で、9日(月曜)は北奥支会を盛岡市杜稷荘で開催された。リレー式にするために予定を変更したり等々御無理をかけた支会があつて、まことに御気の毒の至りであつた。各支会とも非常に盛会で御出席の会員諸氏は次の通りである。

北奥支会

飯塚 安治(蚕17) 野里 秀直(蚕17)
和田 敦(蚕18) 石塚 亮(蚕21)
千葉 豊蔵(蚕29) 長尾 泰次(蚕31)
井出 昭三(蚕36) 久保山保雄(蚕36)
及川 英雄(学蚕1) 小林 寛(学蚕2)
高木 氏人(学蚕4) 堀内 了(学蚕5)
橋本久之介(蚕別2) 高橋 広次(蚕別4)
若井 弘(糸12) 上木 忠士(糸22)
小原 二一(化4) 堀 正文(化7)

宮城支会

本間 直人(蚕1) 北沢 周一(蚕10)
向井 政弥(蚕10) 野口 活也(蚕13)
山本友之丞(蚕15) 川上与三郎(蚕15)
伊藤 力三(蚕17) 安喰 定治(蚕17)
倉沢 恒夫(蚕21) 榎内 明(蚕28)
柿崎 泰彦(蚕29) 両角 繁博(蚕36)
小沢 安雄(学蚕1) 塩原富佐司(学蚕1)
大槻 英雄(学蚕4) 東家 明秀(糸19)
松崎 昇平(糸20) 石渡 重夫(糸28)
菅原 吉隆(糸33) 田中 栄(糸別1)

福島支会

原田 穂亀(蚕9) 安部 和(蚕13)
中沢 薫(蚕14) 西沢 正一(蚕22)
西沢 政人(蚕23) 榎内 明(蚕28)
塩 堀(蚕31) 三輪 久利(蚕34)
把田 英司(蚕36) 柳沢 晋(蚕37)
田原 盛行(学蚕2) 竹内万二郎(糸16)
田中 四郎(糸19) 藤森 朋美(糸20)

中村甲子男(糸32) 岩下 功(紡22)
依田 弘夫(紡24) 足立 利雄(紡30)
土屋 博士(紡30) 水野 方邦(化2)
大泉 英司(農2)

3支会とも開会の辞、会務及び会計報告等が聖通り終り、私は主として50周年記念事業に関する報告とその出資金依頼を弁ずる。何れもパチパチと異議なく可決決定し早速宴会に移る。先ずユーモアたっぷりの自個紹介があり酒の廻らないうち早手廻わしにと1枚の白紙が式場の下真中に延べられると思ひ思いの書体に達筆を揮う。これを取り囲んで勝手な熱を吹き合うのも嬉笑まじき情景である。この出来上つた寄書を床の中央に高く掲げると会の空気が弥が上にも盛り上つて歌に踊りに余興百出極まる所を知らずと云う有様になつた。やがて時来れば発称者の請いに応じて一同起立し校歌を合唱する。感興極まつて哀傷至るの感無きにしも非ず、万才三唱で一応幕は下ろされたが尚思ひ思いに三々五々集つて雑談に花が咲いた。この所で遺憾に思われた事は学部出身者で校歌を知らない人が居たようだ。畢竟我が校の校歌は時代的に置き忘れられて居るのではないか、曲譜は兎も角として歌詞の内容を再検討し校名にふさわしい作曲が喫緊の必要事と思われる。校歌の斉唱は老若を一体として童心に立ち帰えらせ上田へのノスタルジアとなり唱う程に眼險にジーンとした熱いものを感じさせ同窓意慾に燃えさせる、今本部の倉庫に校歌のレコードが眠っているがこれを各支会に頒布し、かかる時に使うのも一案かとも思われる。

私が出発に当つて重荷に感じた事は50周年祝賀費の割当量であるがその点に意見を求めても、格別の反響のなかつた事は有難いような又不安のような、なんとなくよりなさも加わつて心残りであつた。

次に総会情景を拾つて見ると、福島では宴半で阿部さんが立つて本県知事、県養連会長を顧問に推薦する事を提議するとこれに異議あるう筈がなく一同パチパチと賛意を表する。知事、会長共阿部さんの同窓であり且つ友達であるとの事である。竹内さんは幹事だけに同窓会費の徴集が手きびしい、今日の会費以外に何

年前の会費をも併せて出して欲しいと来る。頭をかきかき千円札何枚かを並べて帰る人もある。幹事たるもの又難い哉と思つた。新選支会長不在のため新選副会長西沢政人氏の挨拶があつた。宮城・福島支会共記念撮影が出来なかつたのは残念だつた。北奥支会では下手ながら私のものした写真を掲げて置いた。この日岩手富士が冬の装いを凝らして壮大な姿を見せて居たが陽の加減でこれをバックにすることの出来なかつた事は残念だつた。宮城では山本さんがビシビシと議事を進めて行く。なる程これが県議会の手かと思わせる。支会長に新任された向井さんが宴中半に立つて氏一流の名調子で本県下同窓の長と名のつくものを独り独り引つ張り出し各自の部下を引き立てると支会長の貫録を十二分に示すと、伊藤校長これを受けて立ち、いや自力の手腕で自分の地位を開拓せよ俺は断じて他力で今日の地位を築いたのではないぞーと見得をきり、硬は以上の如く、軟はかくとばかり泥鯱掬いの妙手を御披露に及ぶ正しく硬軟共に備えた大校長たるを思わせる。この所で山岸さんが本間大人を紹介する長い教育上の行績によつて子弟から師父と仰がれ、それを表徴する銅象を建立して貰いしかも今尚教育委員長としてカクシャクとして活動して教育者は日本には滅多に見られない偉大な存在だろうと一同拍手を以て大人の御健康を祝し合つた。

北奥では秋田の飯塚さんが一日の旅程を汽車に揺られて出席されたことは感激的であつた。宴終つて共に碁を囲んだが昔手合わせした当時は私に2、3目の歩があつたが今では実戦の結果対当ではいささか無理のようであつた。彼既に初段だと言うから無理からぬ事である。野里さんも負けたようである。上木さんは畑違いではあるが今は時めく醸造会社の工場長さんである。酒は御手のもので本夜の酒も全部同氏の寄進によるとの事、和田さんは本総会のあるまで上木さんの存在を知らなかつたと云う。これは大発見だと大喜びであるが上木さんのために今後の被害少なからん事を祈るや切と云う所である。若井さんもなかなかの元氣「花くれないに」のロケは盛岡でしかも若井さんの家が出てくると云う。岩手富士を真ん前に見る景勝の地に住んでおられる。小原さんの家は最近火災に見舞われて御気の毒であつたが既に復興し家業弥々隆昌のよし御発展を祈る次第である。

る。

終りに私が福島に着いた時藤森、中村両兄の出迎えを受け会場まで御案内を願つたり、仙台着の際は野口兄初め数名の御出迎えを受け会場まで御案内を願つたり、盛岡着に際しては和田兄御夫妻をはじめ多数の御出迎えを受けた事を感謝する。又途中榎内兄には福島から仙台まで山本兄には仙台から途中まで御見送りを戴き、和田、橋本、長尾3兄には自動車で30余里を突つ飛ばし日吉、藤原三代の遺跡から花巻温泉まで御案内を頂いた事は感激の外である。

昔、汽車の窓から見た冬の東北の農村風景には心ひかれるものがあつたがゆくりなくも今回これを満喫し、加え、那須塩原まで足を延ばす事が出来たのも畢竟三支部会員各位の御厚情の賜物と存じ、長く心に残つた事を感謝し擲筆する。

会員の近況

三丹支会報告

人の歩みも師走と共に忙しくなつた12月8日、母校から蒲生先生をお迎えして三丹支会の32年度定期総会が綾部市紫水閣で開かれた。

会員総数58名中参会者二十余名遠路多数の会員が参加せられた。

昔と少しもお変りない蒲生先生のお顔を拝見して、開会前から大変な賑であつた。

総会は細川副支会長の開会の辞に始まり、馬場支会長、蒲生先生の挨拶に引き続き議題に移つた。

支会長から1年間の会務の報告が行われ、一般報告、会計報告を承認。

次に千曲会の総会に出席した支会長から総会の模様が報告され、蒲生先生から補足説明をお聴きして討論に移つた。

論議は主に50周年記念事業のことに集中し、この完成を誓つた。

次に懸案の支会運営強化の件に入り、馬場支会長から提案理由として、支部組織を強化する目的で、三丹(丹波、丹後、但馬)をもつと小さな地区に別けて各地区に連絡員を置き、密接な連絡をとりたい。

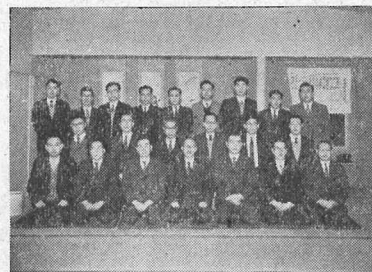
又この地区で少人数でよいから随時例会を開催して親睦を計つてはどうか。との提案にいろいろ討議の末、支会運営強化の件を決定した。

役員には次の諸氏が選ばれた。

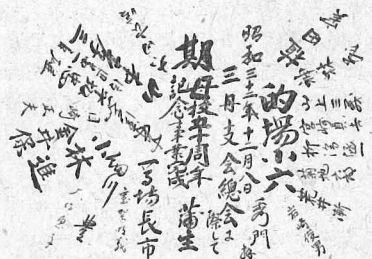
支 会 長……馬場 長市	
副支会長……細 川 豊	
幹 事……太田 良信	村上 義美
塚田 和磨	目崎 正夫
渡辺敬一郎	
地区連絡員…綾部地区*	金 井 保
但馬地区	山上 三義
福知山地区	神 村 茂
氷上地区	久田 雅彦
舞鶴地区	千葉 一雄
丹後地区	岩崎 俊男

懇談会は先生を囲んで和かな雰囲気懐古談に花が咲き、宴は深更に及び最後に校歌の合唱となつた、この時1~2の若い会員が校歌を歌えないことに気付かれた蒲生先生が、現在の繊維学部ではかつての校歌は唱つていない、誠に残念である、との発言があり、誰言うとなく新しい校歌に代るべき親しめる繊維学部の歌を作つて欲しい、いや作るべきである、との発言が多く、全員拍手のうちに「新しい繊維学部の歌を作るべきである」と云う三丹支会の決議が行われた。

蒲生先生にこの三丹支会の決議を学校当局にお伝え下さらんことを御願いして、有意義に総会を終つた。(金井)



昭和32年12月8日(日)
京都府綾部市紫水閣にて千曲会三丹支会総会
出席者の記念撮影

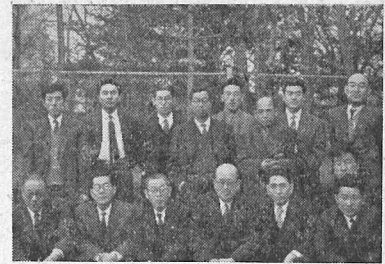
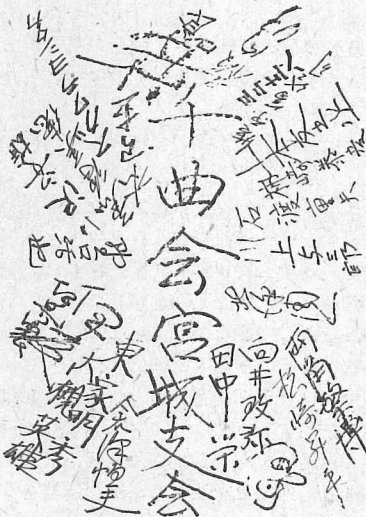


謹告 前会報にNo.74とありますのは、No.73のあやまりにつき訂正いたします。

織農大会開く

倉沢先生の退官を惜しんで

繊維農業科同窓生第3回総大会が正月5日上田万花荘において、恩師倉沢教授、斉藤助教授、町田助教授、小山助教授等を囲んで開かれた。今回は倉沢先生の退官を記念して開かれた故、遠くは仙台、福島、東京を始め50余名の多くが集まった。倉沢先生在職30年の惜別の挨拶の中に限りない子弟愛が伺われた。もともと子等を愛すること即ち教育である、というモットーのもとに今日まで生甲斐を得てこられた先生が学校から去られることは、吾々にとって忍びないことであるが子等の成長の分だけ師は老いるべき歴史のめぐりは致し方ないものである。記念品贈呈を行って懇親会に入る。倉沢、斉藤両先生は酒の戴けないのが残念であつたがジュースを薄めて気分を出してもらつた。宴たけなわなるに及んで戸田教師のハダカ音頭や清水技師のコリヤサ踊り等を皮切りに続々と飛び出し、にぎやかな団らんの雰囲気の中に時間を忘れた。不自由な体をおして出席された斉藤先生も連中の成長振り（飲みっぷり）をみてにこに喜んでおられた。町田先生独り意気軒昂、50人を向うに廻して活を入れていた。殊にチョンガーをつかまえてお嫁さんの世話など、売りこんでおられたふうもあつた。あの当時多少助平な話をして吾々を喜ばしてくれた小山先生も今では堂々農学博士のかんばんをしよつて諸氏からの杯を受けていた。いつ終るともなき会も徳利の乱立足の踏み場なきに及んで、一応のくぎりを倉沢先生及び織農大会の万才で結び、その後寄書きに移つた。酔いたりとはいえ仲々の達筆揃いである。本日出席のされなかつた諸氏に当日の模様をお知らせする意味で千曲会報に掲げて頂いた。斉藤先生の署名は左手で書かれたものである。一同思わず歓声をあげた。(田中記)

東北地方三支会
廻り寄書集

北奥支部撮影

お知らせ

いままで通常会費の領収証は、会報登録をもつてこれに代えて来ましたが、貴重な紙面を他の有益な記事で埋めたいこと、会費納入後領収証確認までの時間が長くて会員各位に不安の念を与えること、事務の正確と速決を期すること等のために本号（1月8日）以降はすべて領収証を本人に直送する事にしました。御諒承下さい。

千曲会会計係

特別活動資金の
募集について

特別活動資金については当初の予定額に較べ未だ2.5割程度の応募金額であります。この資金の目的である就職斡旋については着々効を奏し、既に数名の方が就職できて非常に感謝されております。生存競争の激しい今日、この資金は多々益々弁ずであり、共済的のものであることを再認識いたされ、未醸出の方には1日も早く御納入の程をお願い申し上げます。

千曲会

会費は会の命脈です。

たまるとおっくうになりますので、いくらかでもよいですから、気づいたときに現金を封筒に入れて送附しましょう。

母校だより

△母校では元日に恒例の新年祝賀式が行われたがその際伊藤学部長から祝詞に添えて大要下記の挨拶があつた。
「草木について見ると、春に花が咲き秋に実つて葉が落ちることを毎年繰返している。その間なんらの変化もないようであるが事実はずは太り又は伸びている。当学部についても毎年同じことが繰返されて行くように考えられるがその間絶えざる進歩と発展が無ければならない。殊に昨今科学技術の振興が叫ばれつつある折柄、学問の途にたずさわる我ら一同としては以上のことを肝に銘記してお互本年

もよろしく御努力と御協力を願いたい。

△学生募集要領について

このほど学生募集要領を作成し、入学志願者の便に供している。因に本科の募集人員は養蚕、製糸、紡織各学科は30名、繊維化学科のみは35名で、入学試験期日は3月23日から25日まで3日間(但し東京、名古屋両試験場では23日のレントゲン撮影を25日の身体検査の際一括行うから24日、25日の2日間)、試験場は上田(当学部)東京(お茶の水女子大)、名古屋(名古屋大学工学部)の3ヶ所で行われることになっている。

千曲会告知板

本会日誌

12月15日 群馬支会総会 前橋市に開催さる。本部から山口理事出席。

また蚕糸別科の募集人員は養蚕(約25名)、製糸(約15名)両課程で40名、入試期日は3月26日の1日だけ、試験場は上田(当学部)のみである。

尚入学願書の受付は本科別科とも2月17日から2月26日の10日間である。

会費領収

(1月8日現在)

昭和32年度会費 金300円

川上保人(学化1)
松山仁一郎(糸34)
田中和人(糸26)
塚重次郎(糸32)
山口弘人(蚕37)
佐藤一(紡2)
箱山住夫(蚕26)
角替越夫(糸15)
竹内万二郎(糸16)
沢利三郎(蚕17)
浜村一彦(糸19)
阪本政雄(紡7)
山本友之丞(蚕15)
柿崎泰彦(糸29)
両角繁博(糸36)
東家明秀(糸19)
田中栄(糸別1)
菅原吉隆(糸33)
塩原富佐司(学蚕1)
倉沢恒夫(蚕21)
大槻英雄(学蚕4)
石渡重夫(糸28)
伊藤力三(蚕17)
北沢周一(糸10)
向井政弥(糸10)
尾崎宗観(糸18)
川上与三郎(糸15)
本間直人(糸1)
小沢安雄(学蚕1)
小野口活也(糸13)
安喰定治(糸17)
松崎昇平(糸20)
関文夫(学糸2)
窪田衛二(学蚕4)
山内一次(蚕23)

松尾昭光(約27)
三村大八郎(糸32)
赤羽寿雄(紡22)
窪田巖(蚕19)
榎本健次(紡13)
堀口友治(蚕25)
荻原三郎(学蚕3)
飯塚孝一(紡26)
滝沢孝正(学化5)
柳沢新一(蚕31)
細田増郎(糸30)
秋山利夫(蚕24)
市村志真衛(糸18)
樋田久吉(糸36)
橋本武光(糸7)
大箸政平(糸2)
村田謙治(蚕37)
宮川栄一(学蚕3)
川久保元(紡15)
上田和男(糸6)
松井忠計(学糸1)
池田正五郎(蚕11)
芝田充男(化7)
斎藤猪之作(紡12)
東正雄(糸20)
嘉ノ海彦義(蚕26)
小泉豊(蚕28)
北村宏(学化2)
田中貢(紡28)
祐成亮(蚕17)
星田馨(紡12)
小山恵治(蚕15)
碓氷実(学紡5)

昭和33年度会費

冬泉清(糸26)
藤井富美男(紡8)
柳沢新一(蚕31)
樋田久吉(糸36)
橋本武光(糸7)
東正雄(紡20)
小山恵治(蚕15)

昭和33、34年度会費

中沢利三郎(蚕17)
未納会費納入者
金1,500円
矢島良雄(蚕13) 中沢薫(蚕14)
金1,300円
嘉ノ海彦義(紡26)
金1,000円
足立和夫(紡24) 中沢利三郎(蚕17)
阿部信夫(糸29) 中島弘(蚕35)
服部虎雄(紡2) 東正雄(紡20)
曾山直高(蚕4)
金800円
阪本政雄(紡7)
金600円
市村志真衛(蚕18) 伊藤敬四郎(蚕32)
金400円
中沢貞夫(学紡1) 塩 曜(蚕31)
赤羽寿雄(紡22) 堀口友治(蚕25)
荻原三郎(学蚕3) 飯塚孝一(紡26)
橋本武光(蚕7) 村田謙治(蚕37)
上田和男(紡6)
金200円
箱山住夫(蚕26) 依田弘夫(紡24)
三輪久利(蚕34) 浜村一彦(蚕19)
窪田衛二(学蚕4) 窪田巖(蚕19)
細田増郎(糸30) 大箸政平(糸2)
松井忠計(学糸1) 池田正五郎(蚕11)
芝田充男(化7) 斎藤猪之作(紡12)
小泉豊(蚕28) 田中貢(紡28)
特別活動資金受領報告
金450円 中原亨(糸28)
金300円 飯塚孝一(紡26)

編集後記

○千曲会報No.74をおとどけ致します。
なお正月号は73号のあやまりですので、ご訂正下さいませようおわびにかねてお願いまで。

編集理事 田口亮平 編集総務 小山長雄
部員 白井美明 ノ瀬匡典 美齊津利正
西山久雄 清水周 柳沢幸男